

令和4年度第1回成田市スポーツ推進審議会会議概要

1 開催日時

令和4年6月27日（月） 午後2時15分から午後3時15分まで

2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所 3階 第二応接室

3 出席者

（委員）

村島義則会長、菅沢くみ子副会長、梶尾百合子委員、高橋康久委員、古川正美委員
竹内真太委員、尾高邦生委員、新郷千穂委員

（事務局及び出席者）

シティプロモーション部 野村部長、スポーツ振興課 鵜澤課長

スポーツ振興課スポーツ振興係 大川係長、スポーツ振興課スポーツ振興係 田部副主査
観光プロモーション課 伊藤主幹兼観光振興係係長、文化国際課文化振興係 山倉係長
障がい者福祉課給付管理係 鬼澤主査、生涯学習課社会教育係 成毛係長

4 議事

- (1) 成田市スポーツ振興マスタープラン令和3年度進捗状況について
- (2) 令和4年度スポーツ振興施策について

5 議事（要旨）

- (1) 成田市スポーツ振興マスタープラン令和3年度進捗状況について

《発言要旨》

事務局から成田市スポーツ振興マスタープランの進捗状況の報告を行った。本議事について質疑は無し。

- (2) 令和4年度スポーツ振興施策について

《発言要旨》

事務局から本年度のスポーツ振興施策について説明を行った。その後、次のとおり、質疑応答を行った。

新郷委員：配付資料の4ページ、スポーツイベント一覧について、全日本女子硬式クラブ野球選手権大会の日程が、資料では8月28日まで開催となっており、説明では8月29日まで開催とあったが、どちらが正しいものか。

事務局：資料が誤りであるので、訂正させていただく。配付資料の4ページ、スポーツイベント一覧のNO.12「全日本女子硬式クラブ野球選手権大会」の備考欄

は、開催日程が、8月29日までが正しい記載となる。

竹内委員：スポーツイベント参加率やスポーツ実施率が目標達成されていない中で、その様な状況を鑑み、本年度から新たに加わったスポーツイベントはあるのか。昨年度からどのように変わったのかを教えてください。

事務局：昨年度から比較して新たに加わったスポーツイベントとなりますと、配付資料の4ページ、スポーツイベント一覧では、例えば、NO.12「全日本女子硬式クラブ野球選手権大会」などの誘致大会は、例年のものではないので新たに加わったものとなる。

また、NO.8「関東高等学校柔道大会」、こちらは高校の関東大会であるので、今年度千葉県が開催地の順番となり、成田市での開催となった。

NO.10「木村敬一選手講演会」、こちらは東京2020パラリンピックの100mバタフライで金メダルを獲得した木村敬一選手が講演会を行っていただけることとなっており、共生社会ウィークのプレイベントとして実施いたします。

NO.11「共生社会ウィーク」については今年度から共生社会ウィークとして位置付けイベントを実施するが、次年度以降も実施予定である。

NO.13「WCBF親子野球教室」は、全日本女子硬式クラブ野球選手権大会の間に、全日本女子硬式クラブ野球選手権大会の事務局と協力して市内の未就学児と子供を持つ親子で野球教室を行っていただける予定です。

NO.14の「Girls' Baseball Clinics」も親子野球教室と同様に、王貞治さんが理事長を務めている世界少年野球推進財団が、市内在住の小学生と中学生の女の子と関東近郊のインターナショナルスクールに就学する女の子の交流事業として、野球の練習だと敷居が高いので、野球遊びのような形で交流を行っていただく予定です。

NO.16「全日本サンゴ選手権」は、日本サンゴ連盟の方から、日本選手権を成田市で開催したいとのことであったので、開催予定です。

その他は、NO.18、19「関東古希軟式野球大会」、「関東還暦軟式野球大会」や、先ほど説明させていただいたNO.25「宝くじスポーツフェアドリーム・ベースボール」、また、NO.26「ブラインドサッカー全国大会」などとなります。ブラインドサッカーは、体験会と練習試合は昨年度実施いたしましたが、全国大会は初となります。

尾高委員：マスタープランのスポーツ実施率調査は、市の実施率の調査項目と国の調査項目は異なるのか。

事務局：完全に同じ項目、種目ということではないですが、類似する形でアンケートを実施しております。

尾高委員：こちらのデータを1年ずつ、あるいは、最終年度までこの項目で行うということか。

事務局：中間見直しを令和6年度を目途に、同じような調査を実施予定です。

竹内委員：マスタープランの 11 ページで、スポーツ実施率という数値をスポーツ庁の調査を始め、国、県、成田市と記載していると思うのですが、成田市は数値で見ると非常に低いように見えるが、調査の項目が異なるからという解釈なのか、それとも実際に低いのか。

事務局：調査時の出題の仕方による場所も若干あるとは思いますが、また、インターネットで回答を行っているところと、アンケートの調査方法というところの部分で、実際に成田市の回収率は高くはないので、市民の方の実施率はアンケートの調査を見る限りでは低いのかと考えている。

竹内委員：国の目標値を基準に成田市のスポーツ実施率を設定していますとのことで、国の数値を参考にして算出している。そうすると大分、そもそもアンケート内容が異なるということで、国としては 53.5%という時に、成田市で 65.0%と設定すると、成田市でこれを参考にしてしまうと無理があるのかという印象を受けてしまう。

事務局：国のスポーツ実施率が 53.5%ということで、本市の方も国の数値に近づけるため、65.0%と設定したが、現状では、33.7%と大分低いという認識は持っているが、目標値としては、同じ様な数値をとれるような形で今後のスポーツ施策を実施していきたいということで設定させていただいている。

竹内委員：質問項目自体に、国の方では運動という言葉が入っていることで、成田市の質問では、恐らく現在スポーツをどのくらいという形で質問していると、恐らく回答する方の意識がちょっと変わるのかなという印象があります。軽い体操などはちょっとスポーツとは捉えづらいのかなという印象があるので、その部分が数値に出てしまっているのであれば、もったいないなという印象があります。

事務局：国の方では、ウォーキングなどそういった部分も運動の方に入っていると思いますので、スポーツというと本格的に行うようなイメージがありますので、今後、国と質問項目を合わせられるのであれば、同じような形で調査を行っていきたく検討課題とさせていただければ。

菅沢委員：市の意識調査の回収率が一般の結果が 30.0%と、マスタープランの 18 ページに記載がありますけれども、小中学生が 49.3%と、ここにも問題があるのかなと思います。

また、11 ページのスポーツ実施率を年齢別に見ると、60 歳以上は 42.2%で、若い年代が 19.5%と、この辺りはアンケートの方法で、私も高齢者の健康体操教室など行っているが、実際は、高齢者かなり参加者が多いのですが、高齢者の方にとって、アンケートをインターネットで回答するというのは困難である。紙の調査票を貰っても意図が何を言っているのかわからないなど、そういう状況を見ると回収率が 30.0%というのも納得かなと思う。そこで回収率から見た実施率は、差が出てくるのかと。回収する方法ですとか、アンケートの方法ですとか、その辺りを考えれば、実際に教室をやっている人達を見ると、もう少し数値は出るのかなと。地域的に見てもかなり下総の方で

も歩いている方もいますし、運動とスポーツの認識の違いかと。これが実際の数値ではないと。もう少し高いのかなと考えられる。

6 傍聴

(1) 傍聴者

1人